



# 西小だより

学校 Web サイト URL <http://nishiurawa-e.saitama-city.ed.jp/>

～ よく学び 笑顔いっぱい 一人ひとりが輝く教育の推進 ～

## 《 学 校 教 育 目 標 》

ー夢がわき 心もはずむ 西小の子ー

- ・素直で心豊かな子
- ・進んでくり返し学習する子
- ・ねばり強くたくましい子

## 西浦和小の成長と発展の年に ～一人ひとりの Well-being (幸せ) へ～

校 長 石 田 成 夫

元旦から晴天に恵まれ、まぶしい初日の出とともに令和7年、2025年が始まりました。旧年中は本校の教育活動に多大なる御理解と御協力を賜り、感謝申し上げます。本年も保護者、地域の皆様が御健勝でありますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、保護者、地域の皆様におかれましては、この冬休み、いかがお過ごしでしたでしょうか。この年末年始は、ちょうど前後に土日の週末がつながったため、長い連休をとることができた御家庭も多かったのではないのでしょうか。その一方で、晴れの日が続いたことで空気が乾燥し、インフルエンザの流行や、火災を伝えるニュースが多かったように感じます。

ちょうど昨年元旦には能登半島で最大震度7を計測した大きな地震が発生し、大きな被害が出ました。本校で行われた避難訓練の度に能登半島地震の話題を挙げ、「自分の命は自分で守る」という言葉をくり返し子どもたちに話してきました。もともとは、消防士の方から教わった言葉ですが、自然災害だけにとどまらず、交通事故や不審者対応も含めて、最後は各々の考えで身を守る最善の方法を選択していく必要性を伝えています。台風のようにある程度の対策を事前に講じることができる災害と異なり、地震と、それに伴って発生する火災による災害は、日常生活の中で突然発生します。家にいるとき、出かけているとき、平日、休日、朝、昼、夜…いついかなる時に地震が発生しても大丈夫なように、日頃から家族の連絡の取り方や備蓄品、非常時の食料の確保などを心がけて、御家庭や地域で準備を進めておく必要があります。

正月恒例の1月2日と3日に行われてきた東京箱根間往復大学駅伝競走、いわゆる「箱根駅伝」が今年もメディアで中継されました。それぞれの大学の「襷（たすき）」をつないで一生懸命走る選手たち、一丸となって仲間を応援するチームメイト、声をからして励ます監督とコーチ。それぞれがそれぞれの立場で、目標のために全力を尽くす姿から生まれる様々なドラマは、いつも私たちを感動させてくれます。本校は今年、開校60周年を迎えます。昭和40年から60年間、先輩から引き継いできた歴史の襷を次の世代に渡す節目の年となります。この本校の歴史を紡いできたのは、子どもたちと職員だけではありません。学校と手を携え、ともに子どもたちを育ててくださった保護者の皆様、子どもたちの安全を見守り、支えてくださった地域の皆様、学校に関わる多くの皆様、教育委員会、関係機関を含め、数えきれないたくさんの御支援の下で、本校は発展してまいりました。今、我々が預かっている60年間の歴史という襷を、よりよい形で次世代につなげるよう、教職員一同尽力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

令和7年、2025年は「巳年（みとし）・へび年」です。最近では野原でもへびを見かけることが少なくなり、その見た目から怖がる人もいますが、へびは昔から「再生」や「成長」、「繁栄」の象徴とされ、特に日本では縁起のよい存在として親しまれてきました。

へびは成長の過程で脱皮を繰り返すことから「新しい自分に生まれ変わる」という意味をもち、巳年は再スタートや変化のチャンスに恵まれる年と言われています。さらに今年は60年に一度巡ってくる「乙巳（きのとみ）」の年にあたるようで、大きな変化が起こるとされています。歴史を振り返ると、中大兄皇子による大化の改新（645年）、源氏が平家を滅亡させた壇ノ浦の戦い（1185年）など、歴史が大きく変わる出来事が起こっているようです。

グローバル化や情報化など、常識や価値観が激しく変化している現代社会ではありますが、この巳年の変化が、子どもたちの Well-being (幸せ) につながっていくことを祈ります。

